

## ご案内

～ご紹介いただく医療機関の皆様へのお願い～

### 結核を疑う患者さまの診療について

現在の感染症に応じて外来での対応を決める必要がありますので、ご紹介いただく際には**必ず事前に地域連携センターにご連絡下さい**。つきましては、診療情報提供書のみで直接受診を指示されることはご遠慮いただきますようお願い致します。

尚、**喀痰塗抹陽性の肺結核患者さまについては結核専門医療機関にご紹介ください**。  
当院の感染対策にご理解・ご協力を賜りますようお願い致します。

お申込み  
受付中！

## TOPIC 「連携登録医」紹介カード院内設置のお知らせ

患者さまにご活用いただけるよう、連携登録医制度にご登録いただいた各医療機関の紹介カードを、2階地域連携センターの前に設置しております。

随時、和泉市内の医科・歯科機関の皆様より申込を受け付けております。

※和泉市外の医科・歯科機関の皆様のお申込みについては追ってご案内申し上げます。



(例)



#### 掲載内容

- ・標榜診療科
- ・住所、TEL
- ・診療時間、休診日
- ・対応可能な診療
- ・医療機関の特長
- ・患者さんへのメッセージ

登録医制度の詳細や申込方法については、地域連携センターまでお問い合わせください。

## 3月の休診・代診について

休診・代診については、ホームページ（休診案内）をご確認いただくか、地域連携センターまでお問い合わせくださいますようお願い申し上げます。



### 地域連携センター 予約受付時間

#### 和泉市立総合医療センター 地域連携センター

月～金曜日 9:00～19:00まで

土曜日 9:00～13:00まで  
(但し祝日・年末年始の休日は除く)

TEL:0725-41-3150 (直通)

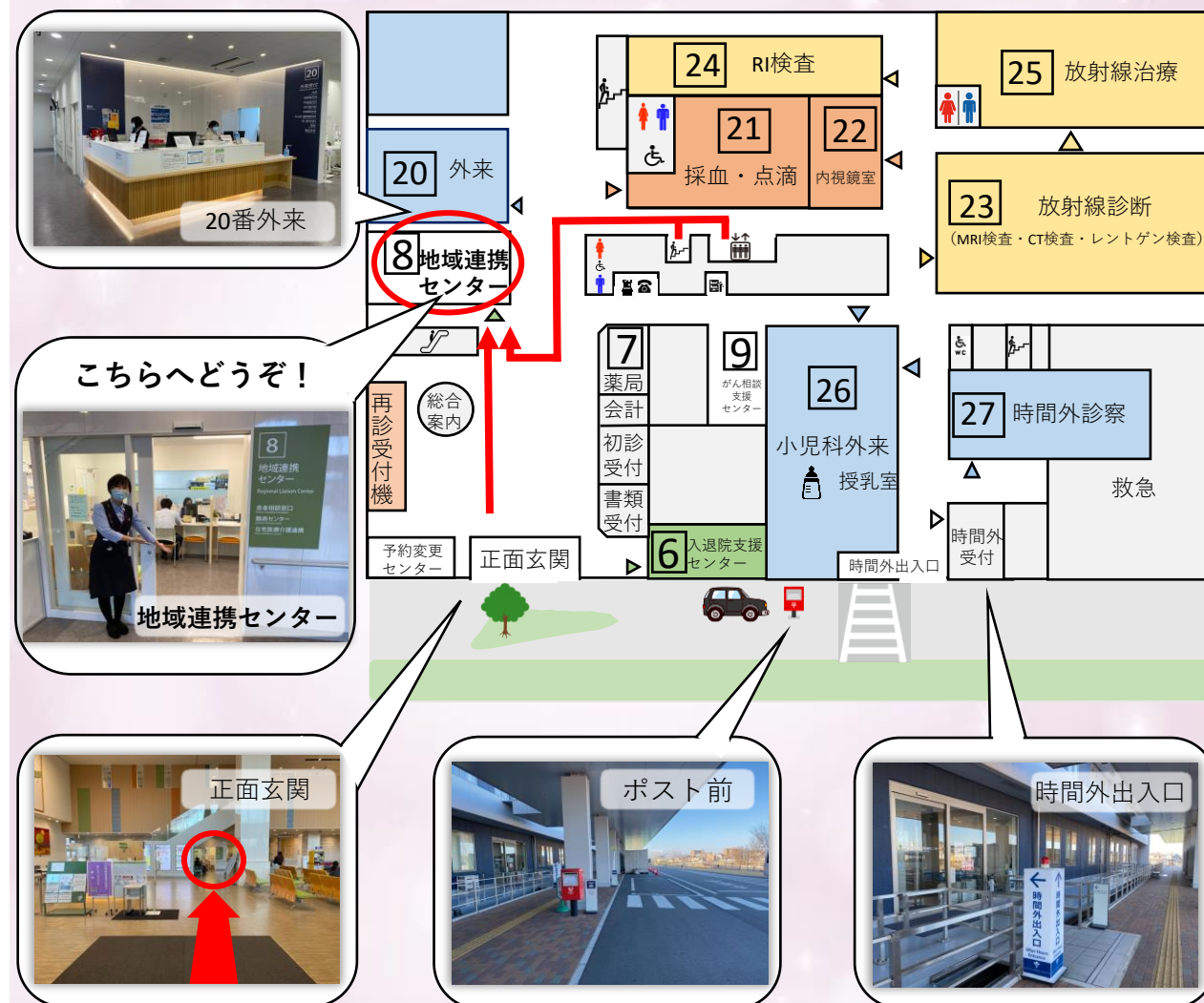
FAX:0725-41-2513 (直通)

# 地域連携センターだより

発行/和泉市立総合医療センター 地域連携センター (毎月1回発行)  
電話/直通 0725-41-3150 代表 0725-41-1331  
FAX/直通 0725-41-2513



紹介状をお持ちの患者さんは2階**地域連携センター**にて受付をおこなっております。



#### 病院の理念

- 1、患者さんの視点に立った安心・安全な医療の実践に努めます。
- 2、患者さんに最適な医療を提供できるように努めます。
- 3、新しいことにもチャレンジし、医療の質の向上に努めます。
- 4、思いやりのある医療人の育成に努めます。





# リウマチ・膠原病内科からのご案内

平素より大変お世話になりありがとうございます。

2018年4月よりリウマチ膠原病内科が新設され、約3年が経過しました。新設当時は、常勤医2名で診療を行っていましたが、現在は常勤医3名、非常勤医1名で外来および入院診療を行っています。しかし、泉北地域におけるリウマチ膠原病診療の中核となる病院のリウマチ膠原病科が次々に閉鎖され、2020年4月以降は、この地域におけるリウマチ膠原病診療の唯一の中核的な病院となりました。そのため患者数が加速度的に増加しており、その対応に追われる日々となっています。関節リウマチの患者数が現在圧倒的に多く、新設された2018年4月は0からのスタートでしたが、現在この原稿を執筆している時点で 560人の関節リウマチの患者さんが当科を通院しています。全身性エリテマトーデス、皮膚筋炎 / 多発性筋炎、全身性強皮症、混合性結合組織病、ANCA関連血管炎などに代表される膠原病疾患も、関節リウマチに比較すると稀な疾患ですが、現在患者数がかかなり増加してきています。

リウマチ膠原病疾患は全身に様々な合併症を起こすため、様々な科との連携が重要です。当院ではその必要な科がほぼ揃っておりリウマチ膠原病疾患すべてに対応できる環境が整っております。外来は月、火、水、金曜日（月曜日は午前のみ）に再診外来、火、木曜日午前に初診外来、木曜日の午後において関節エコー外来を行っています。

## 主な対象疾患

- ・関節リウマチ ・脊椎関節炎 ・乾癬性関節炎 ・結晶誘発性関節炎 ・全身性強皮症 ・血管炎症候群
- ・リウマチ性多発筋痛症などのリウマチ性疾患 ・全身性エリテマトーデス ・皮膚筋炎/多発性筋炎
- ・混合性結合組織病 ・成人スティル病 ・IgG4関連疾患 ・ベーチェット病などの膠原病疾患

## 外来担当医表

※初診は完全予約制です

|    | 月  | 火       | 水  | 木       | 金  |
|----|----|---------|----|---------|----|
| 午前 | 樋野 | 交代制(初診) | 岡田 | 山澤(初診)  | 樋野 |
|    | -  | 池田      | -  | -       | -  |
| 午後 | -  | 池田      | 岡田 | 関節エコー外来 | 樋野 |

関節エコーを行う対象となる方の多くは、関節炎を来すリウマチ性疾患の患者さんです。血液検査や触診ではわかりにくい関節内の炎症を、低コスト、非侵襲的かつ正確にとらえることができます。また、関節痛の原因がリウマチ性疾患なのかそうでないのかを判断するのに大きく役立ちます。関節エコーはリアルタイムで結果を患者さんへ伝えることができる所も特徴の一つです。

分子標的薬の開発は目覚ましいものがあります。当科でもリウマチ膠原病分野で必要な分子標的薬はすべて採用しています。

当科ではより効率的な診断のほか、最新の治療も可能で、より多くの治療の選択肢を提供することができます。

リウマチ膠原病疾患の治療は全般的に免疫を抑制する治療となるため、治療内容により程度の差はあれリスクを伴うこととなります。不幸にも進行してしまった患者さん、合併症や高齢のため積極的な治療が困難な患者さんも決して稀ではないのが現状だと思います。最新のエビデンスに基づきつつ、年齢、全身状態、合併症やご希望などを考慮しそれぞれの患者さんにとって最も望ましい方法を検討し、医療を提供していこうと取り組んでいます。

リウマチ・膠原病内科

部長 樋野 尚一



## 診療実績(2019年度)

### ●疾患別患者数(人)

|                |     |
|----------------|-----|
| 関節リウマチ         | 408 |
| 全身性強皮症         | 26  |
| 乾癬性関節炎         | 19  |
| 全身性エリテマトーデス    | 16  |
| リウマチ性多発筋痛症     | 15  |
| 多発性筋炎/皮膚筋炎     | 15  |
| 顕微鏡的多発血管炎      | 13  |
| ベーチェット病        | 12  |
| 成人Still病       | 11  |
| 未分類脊椎関節炎       | 10  |
| 掌蹠膿疱症性関節炎      | 7   |
| 混合性結合組織病       | 7   |
| 強直性脊椎炎         | 6   |
| 巨細胞性動脈炎        | 6   |
| IgG4関連疾患       | 4   |
| 高安動脈炎          | 3   |
| 結節性多発動脈炎       | 3   |
| 多発血管炎性肉芽腫症     | 3   |
| 好酸球性多発血管炎性肉芽腫症 | 2   |
| 若年性特発性関節炎      | 1   |

### ●分子標的薬使用症例数(例)

|           |    |
|-----------|----|
| トシリズマブ    | 95 |
| アバタセプト    | 64 |
| サリルマブ     | 35 |
| トファシチニブ   | 35 |
| アダリムマブ    | 23 |
| ゴリムマブ     | 20 |
| バリシチニブ    | 20 |
| エタネルセプトBS | 14 |
| インフリキシマブ  | 11 |
| セクキヌマブ    | 8  |
| エタネルセプト   | 7  |
| ベリムマブ     | 5  |
| リツキシマブ    | 4  |
| ペフィシチニブ   | 3  |
| セルトリズマブ   | 2  |
| イクセキズマブ   | 2  |

## 当院で積極的に行っている検査

### 関節エコー



当科では関節エコーを用いた診療を積極的に行っています。「関節が痛い」という訴えて受診されたとしても、触診では関節が腫れているのか、腫れてないのか分からないことをよく経験します。その時に関節エコーをおこなうと、その場ですぐにはっきりします。また、炎症を起こしている部位を正確にとらえることができるため、病態を推測することに非常に役立ちます。関節エコーのみで確定診断をすることはできませんが、病歴と合わせて評価すると、関節エコーは極めて強力な診断ツールになります。

### 腎生検

リウマチ膠原病疾患は、腎炎を合併する頻度がおおく、とくに全身性エリテマトーデス、ANCA関連血管炎はその合併が多く、腎生検が極めて重要な検査となります。当科では腎炎が疑われる患者に対して、腎生検を積極的におこなっています。



## ご紹介いただく先生方へ

「どのタイミングでリウマチ膠原病内科へ紹介すればいいのか。」という質問をよくいただきます。リウマチ膠原病疾患に特異的な症状というものはほぼありません。私たちリウマチ専門医でも一般内科を受診する患者さんからリウマチ膠原病疾患を早期に鑑別することは非常に困難です。「医師がリウマチ膠原病疾患を疑った時」が紹介のタイミングと考えていますので、遠慮なく当科へ紹介をよろしくお願いします。

現在当科外来は大変混雑しており、早く予約をとることが困難だとも思います。しかし、受診が急がれる旨を伝えていただければ、予約を早めることができますので何卒よろしくお願いします。



和泉市立総合医療センター

リウマチ・膠原病内科 部長 樋野 尚一(ひの しょういち)

〈資格〉

日本リウマチ学会 リウマチ専門医・指導医/医学博士  
日本内科学会認定内科医